

新たなビジョン提案

若手起業家トークセッション

原体験語り挑戦者激励 起業への考え方 熱く



concon CEO
高橋 史好さん



Dazy社長
林 龍男さん



AY社長
村上 采さん



NowNever.代表社員
アジズ・アフメッドさん

本県ゆかりの若手起業家によるトークセッションでは、県内外で活躍する4人が事業内容や起業したきっかけを紹介。好きなことを突き詰める大切さや、起業や新たなビジネスに挑戦する人たちの背中を押しした。

インバウンド(訪日客)向けにできる販売などを手がける高橋史好さん(高橋市出身、伊勢崎市長の娘)は、織物「伊勢崎銘仙」をアップサイクルするアプリ「SRR」を開発した。スマートフォンで表情を読み取ることで、心拍数や呼吸数を検知。ストレスや怒りなど予兆があった際に音声で注意を促すほか、事前に登録した連絡先へ通報する機能も搭載した。スマホ1台で利用できる手軽さを生かし、タクシーや運送事業者向けに従量課金制での実装を展望。2人は「SRRの商品化を実現し、世界に広げていきたい」と力を込めた。

高橋さんは高校時代にインドへ留学し、不動産開発でまちを発展させるホストファザーの仕事ぶりを見て起業家を志すようになったと振り返った。大学在学中に起業しインド向け配信メディアを手がけ、その売却資金でデコレーションして販売した。既存のままで脱出した製品を海外向けに売り込み、将来的にパナコレを

目指す夢を語った。村上さんも大学時代にアフリカのコンゴ民主共和国に渡り、不安定な社会で力強く生活する現地の人と交流したことが起業の原体験。アパレル事業で同国との橋渡しをしたいと行動を起こし、慣れ親しんだ伊勢崎銘仙でのビジネス構想が後から追いついたと説明した。

林さんは大学卒業後に就職した商社を退職後、一番好きな飲食を仕事にしよう(一念発起)した。現在は業態の異なる飲食店4店舗を運営するが、学生や社会人の多様な経験が今につながるという。苦しくても従業員を背負う以上やるしかない腹を決める覚悟はあると語った。



ファイナリストプレゼン

桐生高3年

根子 優太さん



身近に潜む食物アレルギーのリスクに着目。確認が困難な視覚障害者向けに、原材料表示や独自のQRコードをカメラで読み取り、音声でアレルギー情報を知らせる装置を開発した。

より多くの人が利用できるよう、実際の装置とアプリの二つでサービスを提供。障害の程度によって使い分けできるように工夫した。「技術だけでなく、ビジネスにつなげる視点も大切。事業化に向け、今後も挑戦を続けたい」と意気込んだ。

佐野 結愛さん、天田ヒカリさん



人身事故削減を目指し、危険運転を防止するアプリ「SRR」を考案した。スマートフォンで表情を読み取ることで、心拍数や呼吸数を検知。ストレスや怒りなど予兆があった際に音声で注意を促すほか、事前に登録した連絡先へ通報する機能も搭載した。



スマホ1台で利用できる手軽さを生かし、タクシーや運送事業者向けに従量課金制での実装を展望。2人は「SRRの商品化を実現し、世界に広げていきたい」と力を込めた。

ぐんま国際アカデミー中等部2年

浜島 陽奈さん



けがで車いすを使用することになった友人を補助した経験から、障害の有無にかかわらず、誰もが快適に利用できる公園の整備プランを発表した。

整備対象に館林市の城沼総合運動場を選定。プランでは、車いすのまま乗れるブランコや段差のないトランポリンといったインクルーシブ遊具の設置、風鈴や花など五感で楽しめる環境整備の推進を掲げた。「みんなが平等に過ごせるようになってほしい」と共生社会の実現を願った。

群馬大5年

宮川 拓也さん



人工知能(AI)問診システムと五感のデジタル化を融合し、あらゆる場所での病院診療を実現する「未来の医療」を展望した。

「病院が苦手」という患者の声を聞いたことが発案のきっかけ。視覚と聴覚による情報に偏っている現在のオンライン診療を発展させた。AI問診と組み合わせることで、自宅にしながら対面と遜色ない医療につなげる。

「ここ群馬から発信し、世界の医療に強烈な空気を吹かせたい」と強調した。

にしざわ接骨医院院長

西沢 洋介さん



「移動できることは人間の本質的な幸せ」。神経を鍛える健康事業を発表した。自身がプロ野球選手時に経験した痛みなどを解消する役目を担おうと、接骨院を開業し、三つの神経に着目した。

感覚神経には特殊なタッチで神経の滞りを改善する施術を実施。運動神経には高齢者の機能回復などを図る療法、自律神経には副交感神経節を刺激する療法を施す。「仲間を増やししながらメソッドを日本中に広めていきたい」と意気込んだ。

F M桐生事業本部長

小保方貴之さん



「地域リスナーと企業がつながる新しい広告市場をつくる」。ユーザーが作成したラジオのプレイリストに合った広告を出稿できるアプリ「shelfs(シェルフス)」の魅力を伝えた。

利用者は各地のラジオ局から番組を選んでプレイリストを作成。ターゲットを個人からプレイリストに変えることで、文脈に合った広告を提供できる。「利用者のストレスを軽減できる。企業も広告をリーズナブルな価格で出せる新しい選択肢だ」と熱を込める。

Splash Brothers取締役

岡村 昌輝さん



3台同時に短時間で洗車できるトンネル洗車機を使ったサブスクリプション(定額利用)の洗車サービスを展開する。本県と栃木県に4店舗を構え、1店舗当たりの会員は約2000人に上る。2027年までに本県近郊で20店舗を出店する構想を示した。

「イノベーションは未来の当たり前をつくること」と述べ、「群馬で根付き始めた、いつでも、どこでも、気軽にできる洗車を日本の当たり前にしていく」と展望した。

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード2024」に協賛しています。
